

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームともえ		
所在地	静岡県静岡市葵区上土一丁目17-95		
自己評価作成日	令和 4年 9月 12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvoCd=2274201579-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvoCd=2274201579-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 10月 6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保育園に隣接しており、園児が元気に園庭で遊んでいる楽しそうな声が聞こえます。園児との直接的な交流は出来ませんが、窓越しに小さな子供の姿が見られる事を毎日楽しみにされている入居者様もおります。季節を感じて生活して頂ける様、居間の飾り付けなども行っています。コロナでご家族との面会が思う様に出来ない状況ですが、月1回のお便りには1ヶ月の様子がお伝えできる様、写真を載せるなど工夫をしております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、毎月の管理者会議にて法人内事業所間の情報共有を図り、各委員会活動やBCP計画を作成し事業所が連携して対応できる仕組みを整えている。管理者と職員は、月1回の定例職員会議と日々の申し送り等にて情報共有を図るとともに、毎月のカンファレンスや年2回「評価シート」にて、個々の目標達成に向け意見交換を行い、職員の良いところを見出して、都度話し合うことを心掛けている。コロナ禍の折、地域との交流の制限がある中、隣接する保育園や大家さんを通して関係継続を図っている。家族との関係継続を図るため、感染対策に配慮した玄関先面会やオンライン面会を実施するとともに、毎月のお便り「ともえ通信」に写真とコメントを沿えて利用者の様子を伝え、家族との絆の維持に努めている。職員手作りの食事の提供を続けており、利用者にも手伝わってもらいながら、楽しく食事をすることを大切に支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	評価シート内にも「自施設の理念を把握しているか」との項目があり、定期的に確認をする機会が設けられている。また、理念を玄関に掲示し、職員間で共有、入居者様の笑顔が少しでも増やせるよう、関わりを持っている。	管理者は、毎月の管理者会議にて、法人の他事業所との情報共有を図り、法人理念を確認している。職員は、月1回の定例職員会議と日々朝夕の申し送りや申し送りノートにて情報共有を図るとともに、年2回テスト形式にて理念を確認し、職員自らが決定している理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の賛助会員になっている。コロナのため、地域との交流はほとんどない状況ですが、大家さんから自治会の事を教えて頂いている。近所の方とは積極的に挨拶を交わしている。	コロナ禍の折、交流の制限がある中、大家さんを通して情報収集を図りながら、地域との関係継続を図っている。隣接する保育園との交流も制限されているが、園庭で遊ぶ様子を眺めたり、挨拶をしてつながりの継続を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、運営推進会議の場を利用して地域の方やご家族に話をする機会があったが、現在は集まっての会議が開催されていない。その為、議事録を皆様に読んでいただき、情報交換を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での開催になっているが、地域住民代表やご家族、包括などに議事録を提出し、頂いた意見があれば、職員と共有している。	運営推進会議は、コロナ禍により書面開催で行っているが、議事録を運営推進会議委員及び家族へ送付し、法人HPにも掲載している。運営推進会議委員からの意見の聴き取りに努め、職員と情報共有を図りながら、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に、生活支援課や高齢介護課などには何かあればすぐに電話連絡をするようにしている。介護相談員も以前は運営推進会議に参加してもらっていた。	運営推進会議の議事録を都度提出するとともに、介護保険課だけでなく関係する各課とこまめな電話連絡を心掛け、利用者の状況に合わせた協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、身体拘束委員会を開催し、定期的に勉強会を行っている。玄関の施錠については、防犯と感染拡大防止のため、日中も施錠を行う事としている。身体拘束と虐待の指針をファイルに閉じて設置しています。	身体拘束適正化委員会は3か月に1回、職員研修はテーマを決めて年3回実施している。身体拘束委員会担当者は、法人内の他事業所担当者と連携して情報共有を図りながら、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。防犯上、隣接する保育園と協力して、玄関の施錠を実施している。	

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に委員会を開催し、年3回の勉強会を行っている。 現在のホーム内の状況を振り返り、「これはどうなのか」との意見を出し合うなどの話し合いも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対する研修などは実施できていない。 権利擁護を利用している入居者様が数名いらっしゃるが、面談などの対応も一部の職員のためのため、制度の理解には乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、時間を頂戴して説明を行い質問にもきちんと対応している。 改定時は書面にて説明を行い、同意を得、入居後の問い合わせにも、きちんと対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで、ご家族の面会が中止となっているため直接意見交換できる機会が少ないですが、運営推進会議の議事録を送付する際には、ご意見ご要望をお願いしますと書面で働きかけています。	コロナ禍であっても家族との関係継続を図るため、感染対策に配慮した15分間の玄関先面会やオンライン面会を実施するとともに、毎月のお便り「ともえ通信」に写真と担当職員からのコメントを沿えて利用者の様子を伝え、家族との絆の維持に努めている。	コロナ禍であっても、家族面会や運営推進会議議事録送付を行い、家族との関係継続を支援していますが、直接意見を聴く機会は減少しています。家族からの意見を吸い上げる方法として、「家族アンケート」実施の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議を、毎月リモートにて行っている。 全体会議やカンファレンスの際に、職員からの意見を聞く機会を設け、その場で解決できる事は、話し合いにて解決をしている。 日頃の職員からの話には耳を傾けるように努めている。	管理者と職員は、職員会議やカンファレンスの際に、意見交換や情報共有を図っている。 年2回行う個人面談では、法人独自の「評価シート」を活用して職員の目標・意向等を確認している。管理者は、職員の良いところを見出し、都度話し合うことを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者との面談を実施している。 評価シートを定期的実施し、その際に管理者と職員との面談を行っている。 資格手当や資格取得後の祝い金なども、職員の向上心に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新入職員研修を実施しており、経験の有無は関係なく参加をして、介護の基本を勉強する機会を設けている。 その他、ホームの代表者が研修に参加し、その内容をホーム内にて職員に研修を行う形での研修も行っている。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はリモートでの参加となっているが、地域のグループホームネットワーク会議に参加をし、意見交換を行っている。 他のグループホームの現状報告など参考になることが多い。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時の面談の際に、ご本人やご家族から話を伺い、入居後の意向や要望をくみ取っている。 得た情報は職員間で共有し、安心した暮らしに繋げられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約時に、現在の生活で困っている状況や、入居に関する不安な気持ちなどに耳を傾けるようにしている。 入居されるまでの期間には、「不安な事や疑問点などいつでもご連絡ください」と声を掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談で得た情報を初回アセスメントにまとめ、ケアプランに反映させる様にしている。 ご家族の意向も大切に、その方に適したサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要な部分のお手伝いはさせて頂くが、ご本人の気持ちを大切にしながら、家事などに積極的に参加して頂き、役割を持った生活をして頂ける様に働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室の担当者を決め、月次報告書などを作成してホームでの様子について情報提供を行っている。 ご家族にお願い出来ることは月次報告書や電話を通してお伝えし、協力をしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにより、面会や外出の制限があるため、支援にも限界があるが、リモートでの面会などは行なっている。 馴染みの場所や人についての話題を提供するなどし、ご本人から話を聞くなど工夫をしている。	コロナ禍による面会・外出制限が続いているが、ZOOM・スカイプでの面会など、感染状況に配慮した柔軟な対応を心掛け、関係継続のための工夫を続けている。訪問美容や隣接する保育園との交流、敬老会の際の大家さんからの赤飯など、事業所での暮らしも大切に支援している。	

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格などを把握した上で席決めなどをさせて頂いている。関わり合いの中でトラブルにならない様に注意しながら、会話の橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後であっても連絡を頂くこともあり、相談を受けた場合には、出来る限りの対応はさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話の中から思いを把握できるように努め、入居者様本位の関わりが持てるように検討している。	管理者は、入居時面談にて利用者・家族の意向を聴き取り、病院相談員からの情報収集によりアセスメント表を作成し、情報共有を図っている。入居後は、利用者の暮らしぶりや希望を観察し、タブレットによるケア記録や支援日誌に記録して、利用者の意向に沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活についてご本人やご家族から得た情報は、カンファレンスやアセスメント表にて職員間で共有している。入居後に得た情報についても共有をし、ケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケア記録により、一人ひとりの一日の過ごし方を把握している。職員間で情報共有することにより、現状の把握ができ、個別ケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにてモニタリングを行い、定期的または必要時にアセスメントをとる事により、計画作成者がケアプランを作成している。介護計画を作成する際に、個々の職員からの情報提供や、入居者様の日頃の言葉も大切にしている。	利用者の現状は、支援日誌や申し送りノートを活用して確認必須項目を記入し、職員間の情報共有を図っている。毎月のカンファレンスでは、該当する利用者の「モニタリング表」を作成し、それを基に職員全員で話し合い「カンファレンスの要点」にまとめる仕組みを整え、介護計画作成・見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにて日々のケア記録は行なっているが、情報共有が必要なものに関しては、支援日誌や申し送りノートなどを利用して、間違いのない申し送りを行い、より良いケアに繋がられるよう工夫している。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを作成する際には、ご家族の意向なども伺い、入居者様の状態変化に対応して職員全員でプランを見直し、支援に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部から美容師に来てもらい、訪問美容室を行っている。 隣接する保育園の園児との直接的な交流は出来ないが、園庭で遊んでいる姿を窓越しに見られたり、元気な声が聞こえ、楽しみに繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックとの契約により、定期的な往診が受けられており、職員は日頃の様子について報告を行っている。 転倒や発熱などの臨時にも対応して頂けている。 必要があれば、医師からご家族への説明をしていただけている。	協力医による月2回の往診や月1回の薬処方と看護師による月1回の定期訪問により、利用者の健康を管理している。看護師は24時間連絡可能であり、常に職員と連携した対応ができる。総合病院等の他科通院は、家族と相談して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や看護師訪問の際には、入居者様の日頃の様子について報告をしている。 心配な事や疑問に思う事を相談し、アドバイスをもらう事も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ホームでの日ごろの様子について病院側に情報提供を行っている。 医師との話し合いに、ご家族とともに参加させて頂くなどしている。 相談員や看護師と情報交換をし、スムーズに退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取り・重度化の指針」について簡単に説明を行っている。 体調の変化などの際には、医師からご家族に病状の説明をしていただき、主にご家族の意向を伺ったうえで、看取りについての説明、看取りプランを作成させていただいている。	入居時に「緊急時の対応マニュアル」を示して、利用者・家族に説明して同意を得ている。 急性期には、再度家族の意向を確認し、医師と連携の上、家族の意向に沿って対応している。定期的に看取りに関する研修(動画研修等)を行い、緊急時の職員の対応を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時・事故対応マニュアル」を法人内で作成しており、職員がいつでも目を通せるようになっている。 静岡ホームクリニックとも連携をとっている。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内でBCPが作成されている。 法人内で、災害時協力ホームが決められており水害などの際に協力ホーム間での避難も想定されている。 隣接する保育園との情報交換も行っている。	法人は、災害時BCP計画を作成し、法人内各事業所との協力体制の構築を図っている。備蓄品は、3日間を目途に備え、法人の防災担当者と連携して管理している。隣接する保育園と情報共有しながら、火災・水害を想定した防災訓練を実施している。	台風被害の際、夜間での対応他、課題が明確になったが、次回の防災訓練の際には、課題に沿った訓練を実施して、事業所内だけでなく、法人全体で共有・検討し、実効あるBCP計画作成に繋げることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様に合った声掛けをさせて頂いているが、フレンドリーになりすぎない様に心掛けている。 排泄時の声掛けなどは特にプライバシーを考えて工夫するようにしている。	法人と管理者は、新人研修・職員研修・月例職員会議を活用して、定期的に人格に配慮した接遇や言葉かけに関する研修を実施している。職員は、法人作成のスタンダードブックを携帯し、配慮した対応を常に確認することができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事でも、選択ができる事はご本人に選択して頂くようにしている。 入居者様の思いが少しでも多く引き出せるよう、コミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ですが、可能な限りご本人のペースを優先している。 職員側の都合を押し付けるような言葉掛けなどをしない様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整える、髭をそるなどの支援を小まめに行っている。 洋服を選べる方には選んでいただき、入居者様の好み把握できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの食材や嫌いな食材を把握し、調理法なども工夫をしている。 食器やお盆拭き、可能な方には食器洗いを手伝っていただくなど、それぞれの方に合ったお手伝いをお願いしている。	職員手作りによる食事の提供を続けている。 食材は、以前は買い物に出掛けていたが、担当職員が注文・週2回配達してもらっている。 利用者の状態に合わせて、調理・配膳の手伝いをしてもらい、誕生日には利用者希望の食事を用意するなど、季節感のある食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量をタブレットに入力し、職員間で共有している。 食事形態を工夫したりし、食事摂取量の減少などが見られる際には、医師や看護師に情報提供を行っている。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の口腔ケアや毎食後の口腔ケアを行っている。 ご自身で行っていただき、足りない部分を職員が補う様にしている。 スポンジブラシを使用される方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレに行っていたり、ご本人の様子で声を掛けさせていただくなど、トイレでの排泄に努めている。 気づいた事などや排便の有無は職員間で共有して支援している。	タブレットの記載と支援日誌の「排泄チェックシート」を併用して、早めの声掛けを心掛けている。車椅子利用者や夜間ポータブルトイレ利用者も、安全に配慮しながら、日中はトイレ利用と先回りケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操に参加して頂いたり、水分摂取量の把握や水分を摂っていただくための声掛けなどに努めている。 昼食時にヨーグルトを付けるなどしている。 改善されない場合は、医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴者を表でチェックをし、順番に声を掛けさせていただいているが、体調や声を掛けた時の様子などを考慮して対応している。	3日に一度、午前を基本として、利用者の希望や体調・気分に合わせて柔軟に対応できるよう、職員の体制を整えている。気分転換のための入浴剤の利用や、シャワー浴等を取り入れ、清潔保持を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に横になって休まれる方が多い。 ご本人の様子で、こちらから休息を勧めることもある。 室温や、寝具を整えるなどの環境整備にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時には、他の職員に周知して全員で把握している。 変更後の様子についても情報交換している。 服薬介助時はダブルチェックを徹底し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋を趣味としている方に対し、職員が相手をしたり、好みのDVDやCDをかけたりしている。 出来る事を役割としてお手伝い頂いている。 誕生日の昼食に好きなメニューを聞いて提供したりと工夫している。		



静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援や外食などは、コロナのため行えていない。 気候のいい時は、近所の散歩などに誘っています。	コロナ禍の折、遠方への外出が難しい状況ではあるが、事業所近くの散歩や隣接する保育園の園庭で遊ぶ園児の様子をみながらの外気浴など、利用者個々の状態に合わせて工夫した支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、ご家族またはホームで行っている。 必要な物やご本人から要望のあった物は、ご家族にお願いしたり、職員が買いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話を掛けたいなどの訴えがあった場合には、ご家族の事も考慮しながら対応している。 伝えたい事を、職員が代わって伝える時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に、季節を感じられる飾りつけをしたり、音楽をかけたりと工夫している。 ソファを設置したりと、ゆったりできる空間作りをしている。 トイレなどは不衛生にならない様に努めている。	法人の感染防止対策を掲示し、定期的な換気と食事前の手指消毒・共用部分(手すり・椅子など)の消毒チェックを続けている。換気として、常時排気口を開けている。管理者と職員は、体温測定と消毒の実施、出勤時の着替え等、感染対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルになる方同士、話が合うなどの関係性などを考慮している。 テーブルやソファなどの配置換えをし、居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの物をお持ちくださいと説明させていただいている。 居室内は、ご家族が入居時にレイアウトされる事が多いが、生活の様子などからご本人が暮らしやすい様に変えさせて頂くことがある。	居室は、洗面台・クローゼットが設置され、馴染みの家具を持ち込み、利用者好みの部屋作りを支援している。職員は、感染防止対策として換気・消毒に注意を払い、毎朝の窓開け換気と清掃を行い、清潔な環境作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内と共用部分ともに、移動しやすい、事故に繋がらないように環境整備を行っている。 ご自分の部屋の場所がわかるように表示したり目印をつけたりしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームともえ		
所在地	静岡県静岡市葵区上土一丁目17-95		
自己評価作成日	令和 4年 9月 12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2274201579-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201579-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 10月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保育園に隣接しており、園児が元気に園庭で遊んでいる楽しそうな声が聞こえます。園児との直接的な交流は出来ませんが、窓越しに小さな子供の姿が見られる事を毎日楽しみにされている入居者様もおります。季節を感じて生活して頂ける様、居間の飾り付けなども行っています。コロナでご家族との面会が思う様に出来ない状況ですが、月1回のお便りには1ヶ月の様子がお伝えできる様、写真を載せるなど工夫をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	評価シート内にも「自施設の理念を把握しているか」との項目があり、定期的に確認をする機会が設けられている。また、理念を玄関に掲示し、職員間で共有、入居者様の笑顔が少しでも増やせるよう、関わりを持っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の賛助会員になっている。コロナのため、地域との交流はほとんどない状況ですが、大家さんから自治会の事を教えて頂いている。近所の方とは積極的に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、運営推進会議の場を利用して地域の方やご家族に話をする機会があったが、現在は集まったの会議が開催されていない。その為、議事録を皆様に読んでいただき、情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での開催になっているが、地域住民代表やご家族、包括などに議事録を提出し、頂いた意見があれば、職員と共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に、生活支援課や高齢介護課などには何かあればすぐに電話連絡をするようにしている。介護相談員も以前は運営推進会議に参加してもらっていた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を中心に、身体拘束委員会を開催し、定期的に勉強会を行っている。玄関の施錠については、防犯と感染拡大防止のため、日中も施錠を行う事としている。身体拘束と虐待の指針をファイルに閉じて設置しています。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に委員会を開催し、年3回の勉強会を行っている。 現在のホーム内の状況を振り返り、「これはどうなのか」との意見を出し合うなどの話し合いも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対する研修などは実施できていない。 権利擁護を利用している入居者様が数名いらっしゃるが、面談などの対応も一部の職員のためのため、制度の理解には乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、時間を頂戴して説明を行い質問にもきちんと対応している。 改定時は書面にて説明を行い、同意を得、入居後の問い合わせにも、きちんと対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで、ご家族の面会が中止となっているため直接意見交換できる機会が少ないですが、運営推進会議の議事録を送付する際には、ご意見ご要望をお願いしますと書面で働きかけています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議を、毎月リモートにて行っている。 全体会議やカンファレンスの際に、職員からの意見を聞く機会を設け、その場で解決できる事は、話し合いにて解決をしている。 日頃の職員からの話には耳を傾けるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者との面談を実施している。 評価シートを定期的実施し、その際に管理者と職員との面談を行っている。 資格手当や資格取得後のお祝い金なども、職員の向上心に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新入職員研修を実施しており、経験の有無は関係なく参加をして、介護の基本を勉強する機会を設けている。 その他、ホームの代表者が研修に参加し、その内容をホーム内にて職員に研修を行う形での研修も行っている。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はリモートでの参加となっているが、地域のグループホームネットワーク会議に参加をし、意見交換を行っている。 他のグループホームの現状報告など参考になることが多い。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時の面談の際に、ご本人やご家族から話を伺い、入居後の意向や要望をくみ取っている。 得た情報は職員間で共有し、安心した暮らしに繋げられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約時に、現在の生活で困っている状況や、入居に関する不安な気持ちなどに耳を傾けるようにしている。 入居されるまでの期間には、「不安な事や疑問点などいつでもご連絡ください」と声を掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談で得た情報を初回アセスメントにまとめ、ケアプランに反映させる様にしている。 ご家族の意向も大切に、その方に適したサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要な部分のお手伝いはさせて頂くが、ご本人の気持ちを大切にしながら、家事などに積極的に参加して頂き、役割を持った生活をして頂ける様に働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室の担当者を決め、月次報告書などを作成してホームでの様子について情報提供を行っている。 ご家族にお願い出来ることは月次報告書や電話を通してお伝えし、協力をしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにより、面会や外出の制限があるため、支援にも限界があるが、リモートでの面会などは行なっている。 馴染みの場所や人についての話題を提供するなどし、ご本人から話を聞くなど工夫をしている。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格などを把握した上で席決めなどをさせて頂いている。 関わり合いの中でトラブルにならない様に注意しながら、会話の橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後であっても連絡を頂くこともあり、相談を受けた場合には、出来る限りの対応はさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話の中から思いを把握できるように努め、入居者様本位の関わりが持てるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活についてご本人やご家族から得た情報は、カンファレンスやアセスメント表にて職員間で共有している。 入居後に得た情報についても共有をし、ケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケア記録により、一人ひとりの一日の過ごし方を把握している。 職員間で情報共有することにより、現状の把握ができ、個別ケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにてモニタリングを行い、定期的または必要時にアセスメントをとる事により、計画作成者がケアプランを作成している。 介護計画を作成する際に、個々の職員からの情報提供や、入居者様の日頃の言葉も大切にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにて日々のケア記録は行なっているが、情報共有が必要なものに関しては、支援日誌や申し送りノートなどを利用して、間違いのない申し送りを行い、より良いケアに繋がられるよう工夫している。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを作成する際には、ご家族の意向なども伺い、入居者様の状態変化に対応して職員全員でプランを見直し、支援に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部から美容師に来てもらい、訪問美容室を行っている。 隣接する保育園の園児との直接的な交流は出来ないが、園庭で遊んでいる姿を窓越しに見られたり、元気な声が聞こえ、楽しみに繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックとの契約により、定期的な往診が受けられており、職員は日頃の様子について報告を行っている。 転倒や熱発などの臨時にも対応して頂けている。 必要があれば、医師からご家族への説明をしていただけている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や看護師訪問の際には、入居者様の日頃の様子について報告をしている。 心配な事や疑問に思う事を相談し、アドバイスをもらう事も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ホームでの日ごろの様子について病院側に情報提供を行っている。 医師との話し合いに、ご家族とともに参加させて頂くなどしている。 相談員や看護師と情報交換をし、スムーズに退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取り・重度化の指針」について簡単に説明を行っている。 体調の変化などの際には、医師からご家族に病状の説明をしていただき、主にご家族の意向を伺ったうえで、看取りについての説明、看取りプランを作成させていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時・事故対応マニュアル」を法人内で作成しており、職員がいつでも目を通せるようになっている。 静岡ホームクリニックとも連携をとっている。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内でBCPが作成されている。 法人内で、災害時協力ホームが決められており水害などの際に協力ホーム間での避難も想定されている。 隣接する保育園との情報交換も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様に合った声掛けをさせて頂いているが、フレンドリーになりすぎない様に心掛けている。 排泄時の声掛けなどは特にプライバシーを考えて工夫するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事でも、選択ができる事はご本人に選択して頂くようにしている。 入居者様の思いが少しでも多く引き出せるよう、コミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操などの声掛けはさせて頂くが、無理強いはせず、他の方より遅れて食事を摂り始めたりする方もいる。 職員側の都合を押し付けるような言葉掛けなどをしない様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整える、髭をそるなどの支援を小まめに行っている。 洋服を選べる方には選んでいただき、入居者様の好み把握できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの食材や嫌いな食材を把握し、調理法なども工夫をしている。 食器やお盆拭き、可能な方には食器洗いを手伝っていただくなど、それぞれの方に合ったお手伝いをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量をタブレットに入力し、職員間で共有している。 食事形態を工夫したりし、食事摂取量の減少などが見られる際には、医師や看護師に情報提供を行っている。		



静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の口腔ケアや毎食後の口腔ケアを行っている。 ご自分で行う方は、その方のやり方を尊重している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行かれる方が多いので、排泄の回数などを把握しにくいところがあるが、上手に声を掛けながら支援している。 気付いた事や排便の有無などは、職員間で共有している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操に参加して頂いたり、水分摂取量の把握や水分を摂っていただくための声掛けなどに努めている。 昼食時にヨーグルトを付けるなどしている。 改善されない場合は、医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴者を表でチェックをし、順番に声を掛けさせていただいているが、体調や声を掛けた時の様子などを考慮して対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の様子で、こちらから休息を勧めることもある。 室温や、寝具を整えるなどの環境整備にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時には、他の職員に周知して全員で把握している。 変更後の様子についても情報交換している。 服薬介助時はダブルチェックを徹底し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洋画鑑賞が好きな方には、自室でDVDを楽しんでいただくなど配慮している。 出来る事を役割としてお手伝いいただいている。 誕生日の昼食に好きなメニューを聞いて提供したりと工夫している。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援や外食などは、コロナのため行えていない。 気候のいい時は、近所の散歩などに誘ったり、玄関前のテーブルでお茶をしたりと、外気に当たる機会を提供している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、ご家族またはホームで行っている。 必要な物やご本人から要望のあった物は、ご家族にお願いしたり、職員が買いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていて、自由にご家族と連絡を取り合っている方もいます。 ご本人から電話を掛けたいなどの訴えがあった場合には、ご家族の事も考慮しながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に、季節を感じられる飾りつけをしたり、音楽をかけたりと工夫している。 ソファを設置したりと、ゆったりできる空間作りをしている。 トイレなどは不衛生にならない様に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルになる方同士、話が合うなどの関係性などを考慮している。 テーブルやソファなどの配置換えをし、居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの物をお持ちくださいと説明させていただいている。 居室内は、ご家族が入居時にレイアウトされる事が多いが、生活の様子などからご本人が暮らしやすい様に変えさせて頂くことがある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内と共用部分ともに、移動しやすい、事故に繋がらないように環境整備を行っている。 ご自分の部屋の場所がわかるように表示したり目印をつけたりしている。		